

# 日経 STOCK リーグ参加

団体名 ● 壺内ゼミナール3年生 / 代表者名 ● 壺内慎二 (経済学部経営学科・准教授)

## はじめに

2021年度の壺内ゼミでは日経新聞社と野村ホールディングス(野村証券)主催の日経 STOCK リーグに参加した。日経 STOCK リーグは、学校教育の場における投資学習の1つのツールとして企画されたコンテスト形式の金融・経済教育プログラムで、2021年度で第22回を迎える。4人前後で一つのチームを組み、各チームは日本証券取引所上場企業の中から自分たちの設定したテーマに沿って20社を選び出し投資ポートフォリオ(金融商品)を組む。およそ4,000社近くある上場企業から20社を選ぶプロセスと、20社のポートフォリオの収益シミュレーションの結果の優劣を参加チームで競う。第22回の参加は中学校294チーム、高等学校618チーム、大学781チーム、専門学校26チーム、参加者7,046人であった。本報告は参加した3チームの提出レポート(テーマ選びの一部)を紹介するものである。

## 活動内容

(岡田爽太郎、中井寧々、内田彩那、秋田陽平、中川珠希)

私たちのチームは、テーマとして「働き方改革」をテーマとした。なかでも我々のチームは、『家事・育児の男女不平等』の問題について焦点を当て、議論を行っていった。なぜなら、学生である我々が将来、社会人として社会に進出し働きはじめ、新たな家庭を築いたときに、仕事をしながらでもより良い育児が出来る世の中になってほしいと考えたからである。また、男性の家事参加や女性の雇用を増やすことに即して、家事をしながら仕事にも参加できる機会が増えるということは、少子高齢化により減少していく労働生産人口の問題を解決する糸口になるのではないかと期待できるのである。そのため、20社を選考するのに当たって、『育児の手助けや男女の平等性』がある会社を選考基準とした。

## 活動内容

(小林健太郎、伊藤由佳、川畑風夏、高森健太、西本結)

私たちは若者の「QOL 向上」に関するテーマで投資を行った。QOLとは「クオリティ オブ ライフ」の略である。この言葉は医療の現場で使われ、治療や療養生活を送る患者さんの肉体的、精神的、社会的、経済的を含めての「人生の質」を意味する。近年は、どれだけ自分らしい生活を送り幸福を見出しているかという意味として経営や普段の生活に使われている。QOLの向上をどれだけ自分らしい生活を送っているか、日常生活の質と捉えた。若者にターゲットを絞り、QOL向上を提供している企業を20社に絞って投資を行った。

## 活動内容

(清水綾夏、小林真広、高井智基、田中衣織)

私たちは「食品ロス」に関するテーマで投資を行った。そして、食品ロスの解決策の一環として「サブスクリプション」に注目した。食品ロスとは本来食べられるのに捨てられてしまう食品を指す。これらのテーマに定めた理由は3つある。1つ目はサブスクリプションサービスは動画配信以外に幅広くジャンルを広げ、成長していく可能性が非常に高いのではないかと考えた。2つ目はコロナ禍で飲食業や農業、食料品に携わる企業が大打撃を受けていることである。3つ目は持続可能な社会を目指す指標であるSDGsの取り組みの中で一番身近で私たちが取り組みやすい課題が食品ロスを減らすことだと考えたことだ。

## 成果、結果

テーマに沿ったポートフォリオとその収益性やリスク、投資シミュレーションをレポートにして提出するとともに、1月にはインナー大会、2月にはゼミコンテストに参加し、成果報告を行った。